日本建築学会大会学術講演梗概集
（近畿） 2023 年 9 月

まちの地域性を表現する建築デザイン手法に関する研究
－新建築誌に掲載された事例群(2020年と1990年)を対象に－

正会員　○原さくら 1*
同　岡松道雄 2**
同　宋俊煥3***

地域性　デザイン手法　新建築
作品解説　批判的地域主義　建築設計者

1. はじめに
1.1 研究の背景と目的

名護市庁舎や広島平和記念公園のように、建築が土着的要素（地域性）を強調する事例が見られる。特定の用途の建築に対して、地域性に関する設計主題がどのように表現されているかを類型化している研究 [1] は見られるが、幅広い建築用途・年代に対して、具体的な建築表現手法を整理している研究は見られない。

本研究では、建築が地域性を強調している事例を多く集め、技法・特徴を明らかにすることで、建築における地域性表現の傾向を把握することを目的にする。

1.2 研究の対象

建築家の言説より作品解説が書かれていること、1 年分の作品数が多いことから、「新建築」誌 [2] に掲載されている作品解説を対象とする。その中で、2020 年発行分の 1 月号から 6 月号まで（109 事例）を主に分析し近年の傾向を把握する。また 1990 年の 1 月号から 3 月号まで(30 事例)と比較し、年代による傾向の違いを明らかにする。

1.3 研究の方法

初めに地域性を定義し、新建築誌の作品解説から定義に該当する単語を抽出する。その後、「地域性」に対応する【①建築物の基本情報】【②地域性の内容】【③建築デザイン手法】の3視点から情報を抽出する。

2020年の事例に関して、①と②クをロス集計し、地域性と建築の基本情報の傾向を把握した後、②と③をクロス集計し、地域性と建築デザイン手法の関係性を整理していく。その後、1990年の事例との比較を行う。

(1)地域性の定義

本研究で扱う地域性とは、「敷地を含むある範囲における、その周辺の土地と区別される性質」とする。具体的には3-2(表1)で定義する。

(2)抽出項目

【①建築物の基本情報】は、延床面積でみる［建築規模］、建築資料集成 [3] の目次で分類した［建築用途］、政令指定都市か否かをみる［立地］を抽出する。

【②地域性の内容】に関しては、建築家の地域の捉え方をまとめている研究（8つ）を1つにまとめた表（表1）を作成し、それに分類する。

【③具体的な表現方法】では、【②地域性の内容】に対して、表現が行われた建築の箇所（以下、表現箇所）と、表現時の態度（以下、表現態度）の2点で見る。

表現箇所は、既往研究 [4] を参考に抽出し、5つの大分類と18の小分類に分類した。表現態度は、地域性に対して同調的な関係をつくる〈同調〉、対比的な関係をつくる〈対比〉、建築そのものは地域性を表現していないが地域性を強調する〈強調〉の3に分類する。

表 1　地域性の内容

	大分類	小分類	抽出例
地域性	【建築】	《建築様式》	佐原伝統の町屋
		《特定建築》	以前建っていた民家
	【都市環境】	《都市景観》	釜石の原風景
		《街路・通り》	中央通り
		《用途》	避難所機能
	【自然環境】	《自然景観》	小野川の風景
		《気候》	南から吹く風
		《光》	自然光
		《地形》	棚田の高低差
		《動植物》	既存の林
	【材料・技術】	《材料》	犬島石
		《施工技術》	抽出なし
	【文化・慣習】	《文化》	深川窯
		《歴史》	地域の成り立ち
		《慣行・気質》	外湯めぐり

2.地域性と基本情報の関係

本章では地域性と建築の基本情報の傾向を把握するため、地域性の内容と基本情報の関係から捉え分析する。

2-1. 地域性と規模の関係

建築規模を延床面積が［1000m2 未満］、［1000 m2 以上 5000 m2 未満］、［5000 m2 以上］の三種類に分類し、その建築規模ごとの地域性の抽出数を図 1 に示した。［5000m2 以上］に注目すると、《特定建築》の占める割合が相対的に高い。また、［5000 m2］以下は【自然環境】が占める割合が相対的に高い。つまり、小規模建築は自然環境を表現し、大規模建築は建築を表現している傾向がある。

2-2.地域性と立地の関係

立地ごとの地域性の抽出数を図 2 に示した。

［都市圏］に着目すると、《特定建築》の数が［地方］よりも多く、【建築】と【都市環境】を合わせると、地域性の中の過半数を占める。また、［地方］に着目すると、【自然環境】【文化・慣習】で高い割合を占める。

つまり、［都市圏］で表現されている地域性は人工物が、［地方］では自然・文化を用いる傾向がある。

A Study of Architectural Design Methods for Expressing the Regional Character of a Town
For a group of case studies published in Shinkenchiku magazine (2020 and 1990).

HARA Sakura,OKAMATSU Michio
and SONG Junhwan

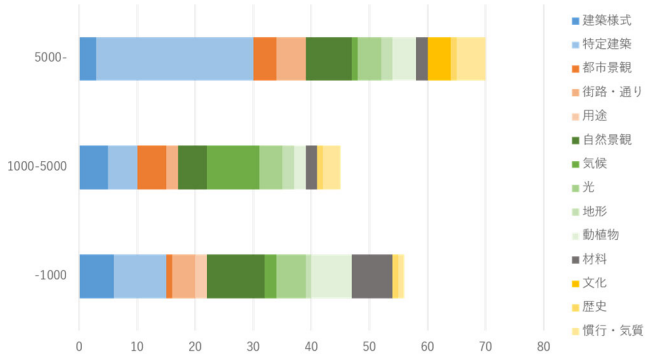

図 1　地域性と規模の関係

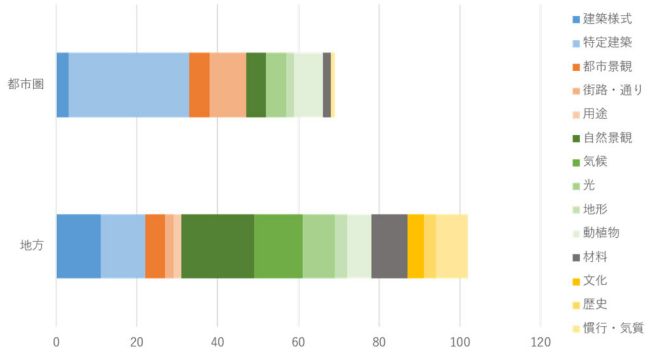

図 2　地域性と立地特性

3.地域性の内容と具体的な表現方法の関係

本章では、地域性と建築デザイン手法の関係性を整理するため、地域性の内容に対する表現方法を分析する。

3-1.地域性と表現場所の関係

地域性と表現場所に相関は見られなかった。つまり、様々な地域性が様々な場所で偏りなく表現されている。

3-2.地域性と態度の関係

地域性ごとの態度の抽出数とその割合を図3に示す。[強調]に着目すると、《都市景観》《自然景観》《光》で半数以上を占めている。つまり、これら3つの地域性は、建築で地域性そのものを見せる表現が典型的といえる。[同化]に着目すると、《用途》《地形》《材料》《文化》《歴史》がすべて[同化]になっている。つまり、これら 5 つの地域性を表現する際は地域性を取り入れる形で表現する傾向があると考えられる。

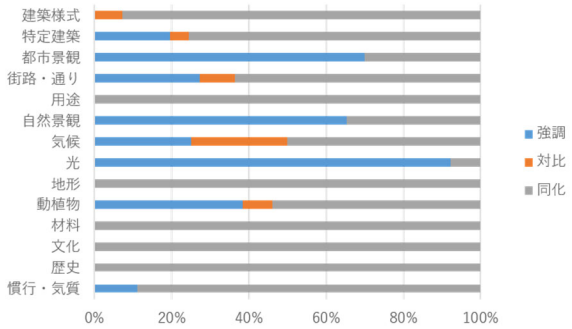

図 3　地域性と態度

4. 1990 年との比較

本章では、地域性表現の変化を明らかにするため、2020 年と 1990 年のデータとの比較を行う。1990 年のデータの整理を行ったところ、表現場所と表現態度に違いがあるため、表現場所と表現態度のクロス集計を行い、グラフに表す。

2020 年の態度は同化が多く、対比が極端に少ない。また建築外部が対比を表現している事例は一つも見られなかった。しかし 1990 年は、態度による差は見られず、建築外部が対比を表現する事例が多く見られた。

これより、地域性表現は地域性を対比しない傾向に、特に地域性と同化する傾向にあるといえる。

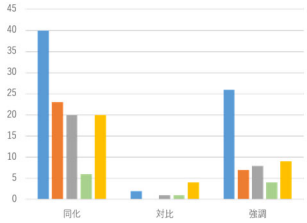

図 4.　態度と表現場所(2020)

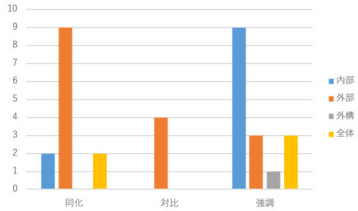

図 4.　態度と表現場所(1990)

5. まとめ

建築が地域性を強調している事例を集め、地域性の内容を、基本情報・具体的な表現方法とクロス集計し、傾向を見た。その結果、4 章では地域性と規模・立地特性の関係には深い相関関係があること、5 章では地域性と具体的な表現方法から地域性表現の典型をみた。6 章では 2020 年と 1990 年のデータを態度と表現場所の関係から分析を行い、地域性表現の変化を明らかにした。

今回は新建築 2020 年と 1990 年のデータを用いて分析を行った。これからは、2020 年から 10 年ごとに過去に遡って同じように検討を行い、比較することで、年代ごとの地域性表現の傾向とその変遷を明らかにしていく。また、クロス集計だけにとどまらず、様々な集計方法を検討していくことが課題である。

参考文献

1) 高橋佑介・山田深「北欧現代建築にみられる地域性と表現」(日本建築学会北海道支部研究報告集)p519-522

2) 新建築社『新建築』(新建築会社,2020,1月号-6月号, 1990. 1月号−2月号)

3) 日本建築学会『第3版 コンパクト建築設計資料集成』(丸善出版,2005)

4) 押川快・小澤丈夫・平輝・角哲「現代日本における建築設計者の作品解説にみる地域性に対する認識とその反映」（日本建築学会北海道支部研究報告集）p391-394

*山口大学大学院創成科学研究科建設環境系専攻
**山口大学大学院創成科学研究科 教授･博士（工学）
***山口大学大学院創成科学研究科 准教授･博士（環境学）

*Yamaguchi University, Graduate School of Creative Sciences, Department of Construction and Environment
** Dr.Eng., Prof. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation, Yamaguchi Univ.
***Dr.Env., Associate Prof. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation, Yamaguchi Univ.